

**能代市国土利用計画**については、計画法第8条の規定により、市の区域における国土の利用計画に係る国土の利用計画を構成し、土地利用の質的向上や有効利用等の基本方針、市街地、農村地域等の地域類型の土地利用の基本方向、農用地、森林等の利用区分別の基本方向を示し、市の国土利用に関する行政上の指針となるもので、今後の行政運営に必要なものである、との答弁があった。

**能代山本広域市町村圏**

**能代市富根診療所設置条例の改正**について、委託診療に至った経緯などについての説明があり、4月からの新医療体制を、回覧通知や診療所内の掲示で周知すること、廃止する種梅出張所については、紹介状の交付などを行う、利用者が困らないようにしたい、との答弁があった。

**農林漁家婦人活動促進施設「杉ホールびびき」の指定管理者の指定**について、平成22年4月から3年間、地元の仁鮎部落

**組合の規約の一部変更**については、組合事務の廃止に際し、特養の海潮園、長寿園の廃止について、多くの市民の方が入所しており、介護保険の運営上必要な施設であり支障がないような形で引き継ぐ、との答弁があった。

**山瀬ダム公共堰堤改良事業**出資金の追加について、ダムの老朽化による改良事業のうちダムより確保している水利権に占めた1・6%分の水道事業で負担することとなり、その3分の1を繰

り出し基準に基づき、市で負担するものである、との答弁があった。

**消防団捜索救助活動費用負担金**については、消防署員や市の職員については、その費用を負担する必要があるが、消防団員や地理に詳しい案内人等に捜索を依頼する場合、全額負担する、との答弁があった。

り出し基準に基づき、市で負担するものである、との答弁があった。

**総務企画委員会**

**文教民生委員会**

**委員会審査報告**



文教民生委員会

**環境産業委員会**

**建設委員会**

**能代毘沙門憩の森の指定管理者の指定**に関し、平成20年度の利用実績と開設以来最も多かった利用実績については、平成20年度は4,050人、最も多かったのは平成4年度の1万6081人、との答弁があった。

また、利用実績の落ち込んでいる要因と、県外への積極的アピールの必

要性と、施設の将来展望への質疑に対し、要因としては、地域全体の子供数の減少のほか、レクリエーションの形態の変化によるものと考えている。常盤ときめき隊が森に植樹しており、今後椅子やカヌーの製作や小中学生への椎茸ほだ木植菌体験の予定や、関東能代会も植樹の候補地にあげている。将来的には、自治会に譲渡し、まちづくりの拠点として活用したい、との答弁があった。

**等の内容は、全国大会出場報奨金、児童生徒の栄光賞、国体出場選手報奨金の3つからなっており、今回の補正予算計上は小学校の全県大会での野球やソフトボールなど人数の多い団体競技の好成績によるものである、との答弁があった。**

(菅原)

**浄化槽の負担を公共下水道の負担レベルと合わせる**ことについては、すべての市民が同一の負担となるのが基本であり、将来的に、合併処理浄化槽、公共下水道等が同一の負担額になるよう進めたい。なお、26年度までは、現行の負担割合を維持する、との答弁があった。

**下水道の汚泥処理手数料の追加**については、中川原中継ポンプ場流入水路の内壁塗装工事のため、水路内の汚泥を完全除去するものである。この塗装は施設開設から初めてで、今後施設の破損等がなければ必要はない、との答弁があった。

**下水道の整備計画区域全体を整備する**とした場合の事業費については、全体計画の整備に係る費用は、事業費ベースで56年度までに概算で816億円と見込

まれる。現計画は21年3月に認可されたもので、概ね7年後には変更を検討するが、今後本市の人口の推移や経費面等も視野に入れて取り組んでいきたい、との答弁があった。

**地方道路整備臨時交付金事業の予算の組みかえ**理由は、委託料に入札差金が生じたことから工事請負費に組みかえて、翌年度以降の事業を前倒しして行おうとするものである、との答弁があった。

(渡辺)